

令和3年度 臨床研究テーマ成果報告書

診療科（部）名：障害者歯科治療部
第3期中期目標・中期計画期間中の臨床研究テーマについて該当するものにチェックを入れてください。（塗りつぶし可） <input type="checkbox"/> 1. 口腔領域における新規組織再生・再建法の開発 <input type="checkbox"/> 2. 高齢者の特性に配慮した口腔疾患の予防法・診断法・治療法の開発 <input type="checkbox"/> 3. 顎口腔機能の維持増進に関する研究 <input type="checkbox"/> 4. 歯科医学臨床教育の質保証に関する研究 <input checked="" type="checkbox"/> 5. その他
研究期間：2018年～2023年
研究課題名：歯科スプリントのチックに対する影響評価
研究課題の概要及び成果：チックは原因不明で、本人の意思と関係なく突然、体が動いたり、声を出したりすることが一定期間続く。障害者歯科治療部には、チックのある患者が多く来院し、その多くは自傷やブラキシズムあるいは顎関節症のため歯科スプリントによる治療を行い、歯科スプリント装着によるチック軽減が観察されてきた。 本研究では、歯科スプリントを装着したチックのある患者において、装着前後のチックの程度を自記式のチェックシートで評価し、歯科スプリントがチック症状の改善に貢献するか否かを検討した。対象者は22名で7から27歳であり、男女比は16:6であった。患者の約64%でチック減少をみとめた。全体を通しTSSRスコアは約60%減少した。チック減少について性差はなかったが、若年者ほど運動チックが減少する傾向をみとめた。スプリント装着によりチックが悪化した者については、スプリントの使用を中止することで元の状態まで回復した。また重篤な副作用はみとめられなかった。（Mov Disord. 2019;34:1577-8.）チックの客観評価（YGTSS）、前駆衝動（PUTS）、QOL調査（SF-12v2）においても歯科スプリントの広範な効果を確認し、歯科スプリントによる筋紡錘感覚入力および歯根膜感覚入力が、チック軽減に寄与する可能性が示唆されている。
上記概要・成果に関連する図表等

図 歯科スプリントの例
当該臨床研究が「口の難病プロジェクト」に関連しているか否か下記のBOXのいずれかにチェックを付してください。（塗りつぶし可） <input type="checkbox"/> 関連がある <input checked="" type="checkbox"/> 関連はない